

創設期明治専門学校に関する一資料：高橋達「明治 専門学校生徒教養ニ対スル希望」

秀村， 選三
九州大学経済学部

<https://doi.org/10.15017/13702>

出版情報：エネルギー史研究：石炭を中心として. 11, pp.167-174, 1981-10-01. 九州大学石炭研究資料センター
バージョン：
権利関係：

創設期明治専門学校に関する一資料

— 高橋達「明治専門学校生徒教養ニ対スル希望」—

秀村選三

石炭産業が社会的にかかわるところは、きわめて広く深く、種々の部面でその関連を考察する必要があるが、教育の面においても重要である。ことに赤池鉱山学校ははじめ一連の技術教育の学校設立の背景や特徴、役割などは充分考察するに値すると思われる。その中でも安川敬一郎による明治専門学校の設立は工学教育がほとんど官設の学校によってなされていた時代であるだけに注目に値するものである。

安川敬一郎の日記、明治三十九年九月二十日の条には

「去る明治二十八年以来筑豊鉄道と九州鉄道との合併増資株の引受をなし、次で明治炭坑会社の設立及同社買収、又は平岡の赤池炭坑に於ける権利買収等は適々以て余が負債を増加し、割引手形の増発一時巨万に達したるも、昨年炭坑の好成績により昨日三井銀行に返済したる手形を以て茲に総ての負債を償還するを得たり。而して尚此に有する山陽・九鉄の両社株を政府が鉄道買収により交付すべき公債に換算するときは約式百七拾万円の剰余を得ることとなるべし。於之余は此全額を以て兼て宿望せる大学校設立の資に供するを得るに至る。尚五ヶ年を経過せば多くの部門を増設するの期に達する難きにあらざるべし」（『撫松余韻』五九六頁）。

とあって、明治専門学校の設立の経済的基盤が端的に表現されており、その時代の雰囲気を感じることができ、また安川が大正七年一月に録した「子孫に遺す」の中には

「最初家政を維持し子弟を養育するの資に充てむが為の窮余に過ぎざ

りし我事業が予期以上に発展して、小なりと雖も今日実業界の伍班列するの境遇に達したるは、是れ正しく偶然の天恵、不慮の僥倖と謂ふべきなり。余は此天恵を私して子孫を怠慢に導くを欲せず。故に聊か従来の事業に対する資金の過剰を見るや、明治専門学校を創立して天恵に酬ゆるの微衷を尽し……」（『撫松余韻』七七八頁）

とあり明治人の気骨、士族出自の企業家の財産観と教育に対する志向を見出すことができる。

ところで、ここに紹介する史料は安川敬一郎と同じく旧福岡藩士で、安川の後輩にあたり、生涯親しい交わりを続けた高橋達（とよはら）が明治専門学校の創設間もない明治四十二年三月に安川に対して学校教育のあり方について意見と要望を述べたものである。高橋達については、すでに本誌6に紹介しているので参照されたい。また高橋と安川の交りの一端を示すものとして、高橋が藩校修猷館通学時のことを安川に問合せ、それに対する安川の返答の書簡を紹介したことがある（秀村編『近世福岡博多史料』第一巻、解題一四、一五頁）。安川・高橋ともに幼時から漢学の深い素養があり、ことに高橋は若くしてイギリスに学び、帰国後『英国市制実見録』『英国叢談』を著述し、また筑豊鉄道会社さらに若松筑港会社総支配人を勤めて実社会も熟知しており、若い日からの安川との交りからも最も良い意見を述べ得る人であったと思われる。安川の教育に対する志とここに紹介する高橋の「希望」を見る時、明治後期の産業発展期における旧士族出自の産業人の見識と

友情を見出すのである。

もっとも高橋が「希望」した如き、技術教育とともに広い教養、とくに「多少理財的」な教育、今日の言葉で云えば経営学、管理工学にあたる学問が明治専門学校においてどれだけ取り入れられたか、私は全く知らない。ただ安川ははじめ「工学部だけでなく商学部も併置して商工両面の教育をほどこしてゆこうというつもり」であったが、山川健次郎の同意が得られなかったと云われている（『九州工業大学五十年史』二八頁）。安川と高橋には同様な志向があったのかも知れない。ただ官立実業専門学校が修業年限三ヶ年であったのに対し、明治専門学校は四年制で、はじめ一年は一般教養を重視したとされている（同上書二九頁）。

「希望」の後半に高橋が述べた師弟関係については、必ずしも高橋の意見の故ではないかも知れないが、教授住宅を学校構内に置き、できるだけ師弟を親しく交わらせた（同上書三二頁）あたりに、その精神は流れているように思われる。

本文は一枚十二行の和罫紙に書かれている。ここでは句点を施し、凡・子をトモ・ネとし、少数の傍注を施した以外はすべて原文通りである。正字、略字が区々に使われているが、出来るだけ原文通りとした。また中国人に関して蔑視的言辭があるが、当時の思想を示すものとして原文のままとした。

（表紙）

「明治専門学校生徒教養ニ対スル希望」

明治専門学校生徒教養ニ對スル希望

我國各種専門學校ヲ各地ニ設ラル、ヤ已ニ久矣、之カ教授法ノ如キ年ト共ニ改良進歩シ、漸次完璧ノ境ニ達セントス、帝國興業ノ為メ信ニ賀スヘキナリ、是ノ時ニ當リ淺學ニシテ教育界ニ遠カリ、僻居シテ時勢ニモ^マ逆レタル余輩カ、之ニ向テ妄リニ云為スヘキモノ、決シテ之レ

ナキ筈ナレトモ、而モ從來余カ擔当ノ事業部内ニ於テ、帝國大學ヲ初メ公私設各専門學校卒業ノ青年ト共ニ絶ヘス實務ニ従事セシコト茲ニ二十余年間、其人員亦タ勤シトセス、之ニ依テ彼等一般ノ氣品ヤ心掛ケノ大様ヲ目撃耳聞シ、日常彼等ノ働キ振リヲ察スルヲ得ルト共ニ、往々慊焉タルモノナキニ非サルヲ覺ユ、是ノ故ニ仰キ願ハクハ貴校ニ於テ教養セラル、學生ヲシテ他ノ各専門學校ノ學生ニ比シテ一頭地ヲ抜クヘキ優秀ナル校風氣質ヲ習得セシメ、科學應用ノ時期ニ及ンテ一種ノ稱揚スヘキ特長ヲ發揮セシメナハ、我國工業ノ發達上如何ハカリ有益ナラン歟ト愚心切望セルヨリ、試ミニ鄙見ヲ叙列シ敢テ清眸ヲ瀆サントス

余カ年来不審ニ堪ヘサル所ノモノハ、各専門學校ニテ工学科ノ教科授業中ニ働力・時間・作業成績等ヲ對比シ、器械力、人力、材料等ノ使用ニ關シ、之カ節約利用ト濫用浪費トノ比較推算方法、即チ作業成績ノ巧拙損得ヲ研究工夫スヘキ多理財的ノ注意ヲ喚起スヘキ教授法ナルモノ、加味教養セラレツ、アルヤ否ヤ、余カ親シク各卒業生ニ視ル所ヲ以テスレハ頗ル疑ヒナキ能ハス

試ニ彼等ニ於ケル余ノ所觀ヲ直言セシメヨ、各卒業生ノ一般觀トシテ専ラ多種多方面ノ科學ヲ短年月間ニ學ヒ、恰カモ完璧ノ学路ヲ踏ミ来リタルニハ相違ナキモ、彼等青年期ノ揺動シ易キ薄弱ナル腦力ニ對シ、強テ八面棒ヲ擬スルノ觀ナカラスヤ、却テ主要ノ目的學科ヲ潜心ニ専修スヘキ日月ニ乏シク、専ラ多方面ノ課程試験ニ悩殺セラレタル痕跡ハ明々地ニ認識セラル、一方ニハ、卒業後ノ自修期ニ必要ナル讀書力ノ素養甚タ不充ナルノミナラス、學校課程ヲ以テ満足シ少成ニ安ンスルモノ尠カラス、夫レ然リ彼等ニシテ相當ニ高尚ナル多種多方面ナル学科ヲ修得シ来レルニモ拘ラス、却テ卑近ニシテ技術家トシテハ殊ニ必需ナル作業費、若クハ製作物品ノ實價ヲ算出スヘキ推算法ノ大意スラ會得シ居ラサル輩ノ多々ナルハ、科學ヲ實務ニ應用スルニ就テ

ノ大欠点ナルカ故ニ、余ハ實務執行多忙ノ間ニモ尚ホ彼等ニ告クルニ左ノ私見ヲ以テスルヲ常トセリ、曰ク、苟モ専門技術家タラン人ハ其學其業ニ忠実ニシテ常ニ之ヲ研究シ沈思シ工夫スヘシ、技術ヲ實地ニ施行スルニ当リテハ宜シク勳力ト作業進行ノ成績ニ就キ果シテ其當ヲ得ルヤ否ヤヲ諦視スヘシ、又タ之ヲ推定スルニハ数理ヲ基トシ時計ヲ以テ作業進程ノ尺度トスヘシ、抑モ工業ノ目的ハ計利ニ在リ、何物トトモ濫用浪費ヲ容サス、是レ技術家第一ノ心掛ケナルヘシト、然ルニ此等ノ苦言ハ中々以テ青年技術家ノ腦裡ニ透入シ兼ヌルモノアルカ如シ、是レ抑モ何故ソヤ、静ニ我邦ノ習俗等ヨリ考察スル時ハ強チ青年學生ノミヲ責ムヘキモノニ非サルカ如シ

蓋シ學術ノ應用、事業ノ施設等ニ關シテ作用スヘキ國民ノ氣風ナルモノハ、各國各々大小優劣ノ別アリテ、必ス夫等國民固有ノ性情ト習俗因襲ノ變遷等ニ大關係アルモノナルヘシ、因テ熟ラ吾人國民ノ性情習俗ヲ考フルニ、其稟性ハ上古ヨリ寧ろ清廉ニシテ貪フサル美質ナリシカ如シ、然ルニ中古孔孟ノ道德教義渡來スルニ及ヒ、日本ノ風教一ニ之ヲ標準トセリ、今日ヨリ之ヲ察スル時ハ、彼ノ仁義ヲ呼號シテ特ニ利慾ヲ貶抑セシモノハ、支那民族特種ノ貪婪ナル性情習俗ヲ警誨覺醒セシムルニ須要ノ教義ナリシモノナルヘシトハ今ノ支那民族ニ視テ思ヒ半ニ過クルモノアラン、鄙見果シテ太過ナシトセンカ、之ヲ用テ標準トセシ吾人日本國民ハ恐ラクハ其警誨ノ目的以外ニ逸シタル氣風ヲ涵養セシモノアルニ非サル歟トハ余ノ私ニ疑ヲ存スル所ナリ、孔孟ノ教義既ニ過度ノ清涼劑ナルニ尚ホ又タ之ニ加フルニ我カ封建制度ヲ以テス、吾人風教ノ遷殆ント一奇ト云フヘシ、我カ封建數百年間ノ政策ノ跡ヲ按スルニ、民ハ資產ナキヲ以テ治メ易シト為シ、只管清貧苦節ヲ奨励シテ苟モ貨殖利用ヲ許サス、若シ之ニ反スルモノアラン歟、國守ト云ハス四民ト云ハス毫モ假借スル所ナク、偶マ恒産ヲ作り貨殖ノ念慮アルモノヲ見テハ、一般ニ武士ノ風下ニモ措ケヌ奴輩ト卑ミ、甚シキ

ハ平素多慾ナリトノ公然タル命令ノ下ニ其財産ヲ官沒スルカ如キ事サヘモ珍シカラス、斯ル習俗ニ馴致シ來リタル吾人ノ家庭ハ勢ヒ消極的忠孝清節粗食破袍、専ラ欠亡ニ耐ユルヲ以テ士人ノ上乘トシ、假ニモ資財ヲ大用シテ大利ヲ計ルカ如キ夢想タモセサリシ事、吾人幼時ノ薰陶方針ナレハ、今日ト雖トモ尚ホ日本民族ノ数理應用ニ無頓着ナル固トニ所由アリト云フ可キナリ」翻テ我科學工業ノ先師國タル歐米ノ習俗ヲ一見スルニ頗ル其揆ヲ異ニスルモノアルカ如シ、余壯年ノ頃英國ノ一家族内ニ同栖セシ時ノ見聞ノ如キ、自他青年子女ノ金錢物品若クハ時間等ヲ濫用浪費スルニ當リ、父母兄弟等カ之ヲ訓誡スルニ（エコノマイズ）ナル簡單ナル言葉ヲ以テシ、即チ此等ヲ如何ニ節約利用スヘキ歟ノ方法ヲ臨機ニ懇示セラレタル事屢次ナリキ、其言葉コソ簡單ナレ、彼ノ習俗ヨリシテ其意義ニハ頗ル力ヲアリテ聽者ノ腦裏ニ一種ノ強ク慚シ入タル感動ヲ與フルヲ自擊シ、私ニ謂ヘラク、嗚呼我日本ニハ之ニ恰當スル國語ナシ、彼ノ消極的儉約トハ頗ル意義ヲ異ニスルモノアリ、蓋シ國語ナキ所以ハ其國俗ニ其等必要ノ存在セサル証左ナルヘシ、已ニ封建消極ノ武士制度撤廢セラレテ商工業ノ發展ヲ以テ士人ノ目的常職トスル新時代ニ遷レル日本國民ハ、又タ隨テ這般ノ觀念ヲ家庭ノ幼兒時代ヨリ涵養セサル可カラサル必要アルヘシトハ余ノ私ニ感悟セシ所ナリ、爾來特ニ我教育界ト卒業ノ青年トニ視ルニ、彼等ノ多數ハ専ラ自家ノ記憶力ニ任セテ多々益々歐米ノ科學事例ヲ直寫シ借用セントスルモノ、如キ風潮ニモ見ヘ、反テ自家ノ修養工夫ノ邊ニ想到自勵スヘキ風儀果シテ之レアルヤ否ヤ、此レ畢竟前述スル如キ我國民性情ノ浸襲ヨリシテ家庭ニ於ケル父母ノ注意ハ舊態ヲ脱スル能ハス、四邊ノ空氣斯ノ如シト云フノ外ナシ、是ノ時ニ當リ之ヲ醫スルノ方法ハ他ナシ、學校内ニテ可憐適知ノ頭腦ヲ導クニ句讀教授ニ止メス、幾分科學ニ伴フヘキ精神ノ誘導方法ヲ加味スルコト、日本學生ノ教育上ニハ極メテ緊要ノ事ナルヘシト信スルナリ

前段ニ掲ケタル科學ノ直写借用云々ノ文字ハ或ハ語弊モアリテ通セサル所アラシク恐ル、依テ聊カ之ヲ解セントス、余曾テ英國「ケンブリッジ」大學經濟學老教授「アルフレッド、マーシャル」ト云ヘル人ニ師事シテ歸朝ノ期近ツキタル頃ヒ質疑シテ曰ク、小生久シク先生ノ口授ト貴著ノ一般トヲ聞見スルヲ得テ以テ感悟スル所尠カラス、因テ惟フニ經濟原理ハ固ヨリ世界共通ナルヘキモ、各國夫々國体ヲ異ニシ人情世態ノ異同アルニ随ヒ必ラスヤ緩急取捨ノ必要アルヘシ、小生日本人タル見地ヨリ熟ラ先生ノ著書ト口授トノ高教ヲ舐味スルニ、素ヨリ世界共通ノ學問ナルヘキモ、小生歸郷ノ後チ一切先生ノ高教ヲ奉行シ得ルヤ否ヤヲ考フルトキハ、或ハ英吉利經濟學トノ感想ヲ起スヘキ点モ亦タ無キニ非ス、幸ニ先生自ラ著書ニ對セラル、所ノ眞意ヲ開示セラレ、將來讀書攻究ノ心得方ヲ明ニスルヲ得セシメラレタシト、先生微笑シテ曰ク、汝ノ問ヤ善シ矣、吾レ改メテ汝ニ告ケン、夫レ學問ハ決して直寫（コピー）スヘカラス、必ス十分ノ斟酌商量ヲ要ス、吾レ近頃當大學ノ舊學生タリシ貴國人菊池氏ニ送りシ書中ニモ此ノ言ヲ以テセリ、今マ茲ニ之ヲ汝ニ繰リ返スノミ、汝チノ問ヤ吾力意ヲ得タリトノ明誨ニ接セリ、爾來之ヲ服膺スレトモ只タ及ハサルノミ、此レ敢テ自ラ測ラス世間歐米ノ學科ヲ直写シ借用セントスルカ如キモノニ對シテ云為シテ止マサル所以ナリ、之ヲ要スルニ我學生ノ思想ヲ歐米化セシムルハ不可能事ナレハ、幾分ニテモ歐米學科ヲ日本化セシメ、學科ニ伴フヘキ實例ノ如キハ成ルヘク昵近ナル我邦ニ求メ、歐米ノ實例ヲ以テ參考比較トスルカ如キ日本々位ノ講學方法ノ攻究モ亦タ我教育家ノ留意スヘキ事ニハ非サルカ

凡ソ一科一業ヲ專修スルノ利便ハ、迅速ニシテ深遠ニ其科業ニ熟達シ自カラ特長ヲ具備スヘキハ勿論、其他諸般ノ利益アル今更嗽々ヲ須ヒス、然ルニ此ノ利便アルト同時ニ、多少ノ弊害ノ伴フモノアル事ヲモ一應攻究スルノ要アルヘシ、中ニ就テ頭腦ノ進化ヨリスル頑強ナル性

癖動モスレハ之ニ随伴シ易キモノアルカ如シ、余ハ試ニ之ヲ稱シテ意思ノ偏固トス、曾テ英國商工業ノ概様ニ就テ聊カ穿鑿セシ時ニ感到セシ事アリ、彼ノ英國ノ商工業タル殆ント劃然トシテ地方的分業トナリテ發達セリ、例ヘハ「ランカシヤ」州ノ紡績業、北東地方ノ製鉄業、「セフヒールド」ノ製鋼刃物業、「バアミンゲハム」ノ雜貨製造業、「エディンバラ」ノ印刷業、「クライド」及ヒ「タイン」河畔ノ造船業、「カアデイフ」及ヒ「ウイガン」地方ノ石炭業、「ノツチンハム」ノ編物業、「ノーザントン」ノ製靴業等殆ント數フルニ違アラス、蓋シ此等分業地方ノ人民ハ、産レ落ルヨリ其分業圈内ニ生長スルカ故ニ、朝夕ノ聞見ニ若クハ遊戯ニ其業ニ縁故アルモノ多シ、例ヘハ北東地方「ミヅルスボロー」邊ノ兒童等ニ見ルニ、動モスレハ鉄鑛一小塊ヲ取り來リ其出所若クハ含鉄ノ多寡割合等ニ付キ肉眼ト指頭ノ感覺ニ依リ物品小錢等ヲ賭シテ之カ勝敗ヲ争フヲ以テ日常ノ遊戯娛樂トナセリ、是ノ故ニ彼等職工タルヘキ年齢ニ達スル頃ニ製鉄上ノ智識ハ業ニ已ニ驚ク可キ程ニ發達シ、直ニ良工タルヘキ素養ヲ具セリ、然ルニ此輩若シ不幸ニシテ中途紡績業ニ轉業セサル可ラサル場合アリトセン歎、彼ノ意思智能ハ性來ノ鐵ノミニ片寄ルカ故ニ、棉質ノ良否紡績作業ノ一ト通りヲ習得スルニモ極メテ遲鈍ニシテ粗笨ナル、多クハ鉄ノ智能ニ妨ケラレ其會得ノ鈍キ事亦タ格別ニシテ、百姓若クハ諸業ニ經驗ナキ素人ノ會得理解ニ比シ遙ニ及ハサルモノアルハ實例ニ乏カラス、是ニ於テ乎當時余ノ師友某教授ハ此ノ弊ヲ指シテ（スチフネス、オブ、マインド）ト命名シ、自家講義中ニ專業ノ利害穿鑿上ノ一事項トシテ計上スルニ至レリ、爾後余輩歸國後私カニ我カ各専門家ニ視スルニ、性來ノ意思ハ是レソト指摘スヘキ偏頑ノ習性毫モ之レナキト同時ニ、今日マテノ我等ノ父兄ハ概シテ専門ノ智識ナク、而シテ社會ハ驟カニ各種ノ専門家ヲ要スルヨリシテ學校規定ノ學科ヲ卒ルヤ否ヤ直ニ相當ナル實務ニ従事シ、

優劣共二世態ノ好機ニ際會スルヲ以テ自得スルモノノ如ク、自修研究ヲ事トシ學科ヲ應用スヘキ工夫ト自家作業ノ巧拙トニ省心苦慮スルモノ果シテ幾何ソヤ、之ニ反シテ若シ同輩中ノ後期卒業者ノ能力科業ニ儲ナル者ノ拔擢セラル、アラン欵、動モスレハ前期卒業者ハ先輩ナリトテ臆面モナク不平ヲ洩シ、単ニ卒業期ノ前後ヲ云々シテ其地位ト給料ノ多寡ニ言及シテ憚ラサルモノアルハ、余等ノ屢次實見スル所ニシテ如何ニモ聞キ苦シキ次第ナリ、然ルニ我科學工業ノ先師國タル歐米ノ如キハ之ニ異ナリ、畢竟學校ノ數モ夥多ニシテ技術家ノ數モ亦タ澤山ナルカ故ナルヘキモ、社會ハ斯ノ如キ學閥情實ノ存在ヲ容サス、專ラ智慧次第、腕次第トシテ勤勉シ、作業ノ成績ニ就テ他ノ侮リヲ受ケサルヲ以テ主眼トスルモノノ如シ、其一例トシテハ余ノ縁族中ノ一人日本ノ某専門学校ヲ卒業シテ米國ニ行キ同國ノ某「メカニカル、インスチチュート」ニ入学シテ卒業ノ後チ、同國某器械製造所ニ見習ニ行キ、續テ技師トシテ備ハレタルモノアリ、彼カ初發ノ給料額ハ同所ニテ已ニ三年前ニ備ヒ入レラレタル同窓先輩ナル一技師ノ給料ヨリ多キ事拾五弗ナリシヲ以テ、彼ハ日本流ノ觀念ヨリシテ先ツ支配人ニ向テ先輩技師トノ權衡上一應辞退セシニ、支配人ハ頗ル不審ノ態ニテ却テ辞退ヲ以テ給料不足ヲ云為スルモノト誤解セラレントセシ事アリ、其後一方ニ氣兼ねセシ相手ノ先輩技師ノ様子ヲ察スルニ聊カ不満ノ念ナキノミナラス平然トシテ勤務セリ、是ニ於テカ米國ハ全ク各自ノ技能次第ニ進退スルノ氣風ナルヲ確認スルヲ以テ、爾來安心シテ專ラ自家ノ技能ヲ發揚スル事ノミニ傾注セリ、顧フニ日本ト歐米ト人情習俗ノ異同ハ實ニ意想外ナルモノアリ、此等ノ機微ハ即チ彼我事業ノ隆替、技能ノ優劣上大ニ吾輩ノ猛省ヲ要スヘキモノアリトハ其人余ニ向テノ感悟談ナリキ、知ラス、性來偏頑ノ習癖ナキ我專門技術家ノ頭腦果シテ何レノ方面ニ進シツ、アリヤ

工業實務ノ大体ヨリ事業主宰者ノ眼ニ映スル事ニシテ技術家ノ注意ヲ

喚起シタキモノアリ、凡ソ工業経営中ニ金錢物品出納ノ任ニ當ルモノニシテ時ニ金壹錢若クハ些少ナル物品ノ出納ヲ誤ラン欵、忽チ帳簿其他ノ大搜查ヲ為シ問々多人數徹霄^(宵カ)シテ其始末ヲ為ス事珍シカラス、然ルニ同工業内ノ器械又ハ材料等ノ如キ其價格ハ彼ノ金壹錢ノ何千万倍ニ達スルモノヲシテ等閑ニ工場内ニ放置シテ深ク省ミサルモノ、諸工場ニハ往々見ル所ニシテ、其不利損失ハ明ラカナレトモ、多クハ雜務ト専門家トノ間分担區域ノ異ナル邊ヨリ看ス々々、無益ニ大金ヲ浪費シ不始末ニ流ルル事尠カラス、此事タル未タ著シキ世間ノ問題タラスト且トモ、審ニ之ヲ察スル時ハ工業發達上ニ大關係アル一大弊害ナリト信スルヲ以テ、青年技術家ニ向ヒ業務ニ忠實ニシテ研究工夫シ数理ヲ基トシテ作業ノ成績ヲ察知シ、濫用浪費ニ注意スヘシト苦言シテ已マサル所以ナリ以上叙列スル所ノモノハ、余カ從來見聞若クハ實驗ノ梗概ニシテ遺憾措ク能ハサル所ナリ、依テ私ニ之ヲ醫スルノ途ヲ考フルニ、必ヤ工学科教授ノ際適當ノ方法ニ據リ彼ノ賃金問題(ウエージス、クエツシヨ^ン)中ノ職工日給金(ノミナル。ウエージス)ノ高下ト作業実績ノ給金ノ多寡割合(タスク、ウエージス)ノ比較、若クハ日本職工及ヒ器械ノ作業割合ト同一類似ノ場合ニ於ケル歐米ノ割合トノ比較法、及ヒ其作業ノ成果即チ製造物ニ對スル作業費ノ多寡比較等ヲ算出スヘキ方法ノ一通リ位ハ充分學生時代ニ會得セシムル様、工学科教師ヲシテ口授セシムルカ如キ果シテ如何ソヤ、是レ經濟素養ニ疏ク動モスレハ科學ヲ借用セントスル我等日本人ヲシテ歐米科學ヲ相當ニ消化セシメ實地應用上ニ過誤ヲ免ル、ニ足ルヘキ必要ノ按件ナルヘシト信ス、蓋シ特ニ賃金問題云々ト稱スル時ハ、一見經濟學科中ノ分類ノ如ク聞ユレトモ、彼ノ給金ノ多寡、器械力ノ大小、作業ノ多寡等ニ係ル比較算出方法ノ如キハ全ク社會一般ノ宜シク會得シ置クヘキ卑近ノ事柄ニシテ、別シテ工業技術家トハ離ル可ラサル一大要件ニアラスヤ、試ニ思ヘ、現今我工業ヲ經營スルニ當リ、之カ器械ノ選定ナリ職工人員ノ取り極

メナリ材料ノ準備ナリ之ヲ設計シ之ヲ使用スル當事者ハ工科學生即チ技術家ナリ、此輩若シ製作費ノ比較算出ヲ忽セシ、唯其成り行キニ随ヒ恬トシテ押シ移リ自家職責ノ重ンスヘク慎シムヘキ心掛ケ薄キモノアランカ、其作業ハ大抵濫用浪費ニ流ルルヲ常トス、我輩多年ノ作業中ニテモ我輩ノ耳目ニ達セサル間ニ、當事者不注意ノ為メ已ニ濫用浪費ニ傾キ、其成行ハ如何ニモ無益ト断スヘキモノアルモ、業ニ已ニ事後ニ属センカ無益ト知レ共如何セン、貴重ナル資金ヲ徒消スルノ外ナキ場合ニ陥ル事往々之レアリ、是レ畢竟我輩ノ如キ主宰者ノ職責不十分ナルヲ免レサルモ、而モ一般ノ主宰者タルモノ亦タ技術當事者ニ委任セル作業ノ現狀ヲ時々刻々ニ注視セン事ハ全ク不可能ナルノミナラス、相當ノ當事者ニ對シテ然カナスヘキ筈ノモノニハアラサルヘシ、夫レ然リト呈トモ今マ此等ノ事ヲ以テ俄カニ學校教育者ニ望ムハ頗ル徑路ヲ失スルノ誹リアルヲ知ル、抑モ青年子弟ノ氣品心掛ケ等ニ関スル感化修養ノ如何ハ固ヨリ家庭ノ素養ニ在テ存スルモノナルヘキモ、如何セン我邦父兄ノ現況ヤ前述スルカ如ク、而シテ現下ノ風俗亦タ頼ムニ足ラストスレハ、之カ矯正ノ途ヲ以テ専ラ學校教育者ニ待ツモノ信ニ已コトヲ得サレハナリ

我邦現今ノ學科程度若クハ教授方法ニ就テハ余ハ實ニ審カニ之ヲ知ラス、単ニ門外漢トシテ妄リニ之ヲ云為ス、必スヤ不謹慎ノ誹リヲ免レサルヘシ、然リト呈トモ尚ホ且ツ黙シテ止ム能ハサルハ、殊ニ我都會ニ於テ見聞スル所ノ教師ト學生トノ關係是レナリ、試ニ我教育ノ淵源トモ稱スヘキ東京ニ視ルニ堂々タル學校ノ教職ヲ負擔スル學者ニシテ一身ヲ以テ數校ノ教職ヲ掛ケ持チシ、其他著述ニ翻譯ニ諸雜誌、諸講義録ノ寄稿等所謂ル内職ニ忙殺セラレントスルモノ尠カラス、故ニ本教職トシテ適知可憐ノ青年ニ對スルニハ勢ヒ御役目的トナリ、粗雑ニ流ルルモノアリト聞ク、實ニ愕キ入りタル世潮ナラスヤ、彼ノ歐米科學ヲ直寫シ借用セントスル傾向アルカ如キ、恐ラクハ此邊ニモ歸因

スト言フモ過言ナラサルヘシ、若シ夫レ我輩幼時ノ漢學講習時代ニ視フルニ、其書籍、其教授法ノ如キ今日ヨリ之レヲ見レハ不備茫漠、殆ント云フニ足ラスト雖トモ、獨リ師弟ノ關係ニ至テハ親密ノ至情ニ成リ、我輩老生ノ氣品、心掛ケノ大半ハ授業時間外ニ漢學先生ヨリ温健ナル薰陶ヲ受ケタルモノニ基因スト云テ可ナラン、嗚呼此レ我日本ノ今日ニ於テハ一ノ昔話トナリ了レトモ歐米ノ學界ニテハ現今盛ニ此ノ事アルヲ見ルハ信ニ羨望ノ至リニ堪ヘス、余カ英國大學ノ諸大先生ニ就テ目擊實習セシ所ヲ以テスレハ、大先生方ハ大抵一周二日午后ノ間ト定メ、自宅ノ書籍室内ニ安坐シテ學生隨意ノ訪問質疑ヲ待チ恂々トシテ教導セラルルノ厚誼アリ、今ニ於テ彼ヲ思ヒ此ヲ思フニ、抑モ子弟教育ノ要義ハ必スヤ是ヲ以テ基第一義トスルモノニハ非サル歟、思フテ茲ニ至レハ我邦現代青年學生ノ境遇ハ實ニ不幸ノ極ニ陥リタルモノト云フヘク、世ノ心ヲ子弟教育ニ傾クルモノ、宜シク一考スヘキ事ナラスヤ

因ニ英國學者ノ高尚ナル氣品ニ關シ、二ノ實驗事項ヲ記サンニ、余カ同國「ケンブリッヂ」大學ニ出入セシヤ、最初ヨリ約二ケ年斗リトノ限リアルヲ以テ公然タル大學生ニ非スシテ全ク一個ノ風來生ナリシカ、知友ノ心配ニ依リ何レノ校内ヲ問ハス所望ノ講義室ニ出入スルヲ得タリ、前ニ記セシ「マーシヤル」先生ヨリ初メテ講義ヲ聴キシ時ノ如キ、初日ハ講堂ノ最末席ニ員外生ノ心得ニテ最モ控ヘ目ニ着坐セシカ、翌日開講前ニ先生滿堂ノ學生ニ諮リテ曰ク、凡ソ外國語ヲ聴取スルニハ席ノ遠近ニ隨テ大差アル事予カ獨ニ遊學シテ聴講セシ時ノ實驗ナリ、彼ノ末隅ニ坐セル極東ノ外國人高橋ノ苦心察スルニ餘リアリ、諸子彼ニ讓ルニ予カ直前ナル此ノ首席ヲ以テセン事ヲト、滿坐直ニ起立シテ順次ニ換席スルヲ待チ余ヲ麾キテ直前席ニ着カシム、講義後問テ曰ク遠近ノ差果テ如何ト、余カ其差ノ著シキヲ以テ感謝スルヲ見テ大ニ満足セラレタリ、爾後余ハ此特席ヲ

占有セシ事凡ソ二ケ年間ニ涉レリ、其温情ヲ垂レ誘導セラレタル事至レリ盡セリ

当時壯年ニシテ儕輩ニ擢出シ故「ヂエボン」博士學系ノ繼承者ト瞻サアリシ「エッチ、エス、フオクスウエル」ト云ヘル大學講師ニモ二年余リ聴講セシカ、同大學ノ講師ハ聴講學生一人ヨリ一學期ニ英貨一磅ヲ授講料トシテ徵収スルノ制ナルカ故ニ、余モ亦タ同シク之ニ準シテ謝儀ヲ呈セントセシニ固辞シテ曰ク、子ヤ遠來好學我大學ノ様子ヲ見シカ為メニ幸ニ吾カ講義ヲ聴ク、已ニ愉快ニ堪ヘサル所、吾レ大學生ノ為メニ講演スルモノ、子ノ來ルカ為メニ毫モ勞ヲ増スモノナシ、吾レ敢テ子ニ謝儀ヲ望マンヤ、吾カ講スル所ニシテ子若シ聴クヘキモノアリトセハ一日ニテモ永ク來ラン事ヲ望ムトテ、終ニ七學期ノ永キ無謝儀ニテ聴講セシ事アリ

余ハ在英中一學士ヲ私教師（プライベート、チュウター）トシ、一週間三回ヲ約シ質疑講義ヲ乞ヒシ事アリ、同時ニ卒業前ナル大學生ノ來リ學フモノ常ニ四、五名アリ、一人一學期間ノ謝儀英貨五磅内外ナリシ故、小弟モ亦タ之ニ準セントセシニ、其人辞シテ曰ク、凡ソ大學生ヲ私教スル其目的タルヤ、有期卒業試験ノ準備ナルカ故ニ材料ノ蒐集等意外ノ手数ヲ要スルモノアリ、子ノ私教ニ至テハ大ニ異ナリ、隨時ノ質疑、隨時ノ講義ニシテ左マテノ手数ヲ要セス、時トシテハ互ニ巧究シ己レモ亦タ益スル所アルヲ覺ユ、此等ハ彼ノ勞金問題ニ視サル可ラサル一ノ實地問題ニ非スヤ、一學期二磅ナラハ充分ナリト、余ノ之ヲ強ユル再三ニシテ漸ク三磅トシ、敢テ其余ヲ受ケサリシ事二ケ年半ニ及ヘリ

此等ノ諸先生ハ時々吾等學生数名ヲ茶話席ニ招キテ自カラ學事ヲ談シ、或ハ學術會ニ同伴シ、或ハ參考書目ヲ懇示シ、事ニ随テ名家ニ紹介ノ勞ヲ取り呉レラル、カ如キ師弟ノ情誼極メテ濃カナルモノアリ、中ニ就テ余ノ如キハ出郷万里ノ憑リ勤ナキモノトシ、殊ニ優シ

ク遇セラレ時々添書中ニモ此ノ異境人我英語ニハ訥ナレトモ事理ハ存外ニ會得シ得ルモノ故、其思召シニテ懇示セラレン事ヲ乞フ等ノ情語ヲ添ヘ呉レラレタル事一再ニ止マラス、今ニシテ之ヲ懷ヒ、醜テ目今日本學界師弟ノ關係ニ視フル時ハ、自家ノ浴セシ舊温情ノ忘レ難タサニ不知不識追懷絮說シタキ婆心ヤ今マ尚ホ勃々たり

斯ル世教神氣頹廢ノ時ニ當リ老兄專門學校ヲ設立セラル、其規模ノ絶大ニシテ其目的ノ高潔ナル、我邦未タ曾テ之レ有ラサルノ偉業ニシテ、邦家將來ノ幸福豈ニ余輩ノ嘸々ヲ要センヤ、謹テ按スルニ老兄ト呈トモ亦タ前叙セル消極的忠孝苦節粗食破袍、専ラ欠亡ニ耐ユルヲ以テ士人ノ上乘ト為シ來リタル一人ニシテ、國政維新ト共ニ滿天下失職ノ士人ハ惟リ官位人爵ニノミ窩心蝟集セシ混濁ナル世潮中ニ立テ屹然トシテ感ハス、當時極メテ幼稚ニシテ其需要モ亦タ今日ノ隆盛ヲ思ヒ設ケサル微々タル我筑豊ノ採炭業ニ投シ、永年月ノ間挺身勵精、時運ノ消長、事業ノ盛衰殆ント際涯ナキ辛酸ト戦ハレ、終ニ万難ニ撃チ勝チ今日異數ナル大成功ノ樂境ニ入ラル、若シ夫レ普通人生ノ常規ヨリセハ、老兄タルモノ老後ノ安逸、一家子孫ノ為メ富貴儉安ノ策ニ忙シキ筈ナラシニ、崇高ナル思想ハ素ヨリ凡俗ヲ脱シ、世間富豪ノ夢想ニタモ上ラサル莫大ナル資産ヲ投シ、清廉仁慈ニシテ規模絶群ナル專門學校ヲ設立シ、以テ國家ニ有用ナル俊才ヲ教養シ、獨リ自ラ天爵ト共ニ永ク老ヒントセラル、モノ、人生稀有ノ快事嗟又タ偉ナラスヤ、而シテ年來經營セラレタル事業ヨリシテ技術家ノ長短得失素ヨリ熟察セラレ、學生ノ前途ニ就テ期待ララル、モノアルヘキハ拜察スルニ難カラス、夫レ學校整備シテ教師ハ天下ノ良材ニ取り、入校ノ學生亦タ世ト其選ヲ異ニシ、多數ヲ舍テテ純良ノ少数ヲ大成セシメントシ、校舎ノ位地ヲ僻邑ニ撰ヒ教師ヲ厚遇シテ安心講學ヲ事トシ、毫モ内職ノ必要ナカラシムルノミナラス、學生ヲシテ沈着ニ學業ヲ勵ミ、外物ノ誘惑ニ遠サカラシメテ以テ師弟間ノ温情自カラ這裡ニ油然タル可キノ邊マテモ深

謀遠慮セラレタルモノ、信ニ至レリ盡セリト云フヘシ、十目ノ視ル所
 已ニ斯ノ如シ、豈ニ敢テ譎劣ナル鄙見ヲ容ルヘキ(辨カ)アランヤト躊躇数
 次、又タ謂ヘラク余ノ初メテ知ヨ老兄ニ辱フセシハ今ヨリ四十余年前、
(感)碗白ナル少年ノ昔ニシテ、中頃余ヤ東西萍遊ノ餘、又タ復タ朝夕老兄
 ノ指導ヲ辱フスルモノ無乃人生中ノ一奇ト云フヘシ、高誼夫レ斯ノ如
 シ、思フテ而シテ言ハサルハ信ニ背カン事ヲ恐レ遂ニ偏矯ナル私見ヲ
 草ス、然リト虽トモ洪筆所思ニ副ハス、愧羞交モ至ル、幸ニ推讀ノ榮
 ヲ垂レン事ヲ、伏乞々々

明治四十二年三月 日

辱弟

高橋 達

(一五頁より)

- △芳谷 六二、四一二、六〇〇
- △相知 四八、七三九、三二〇
- △岩屋 二〇、九五〇、〇一八
- △杵島 (マ) 三一、八一六、八三〇
- △杵島第二坑 二九、五九二、五四〇
- △久原 一一、六二六、一〇四

大正三年十月一日 婆の縊死

東松浦郡北波多村大字岸山芳谷炭坑岡本チサ(七十五)は平素
 老耄の狀態に陥り居りしが、近来脚氣に病み癒々身体不自由とな
 りしを苦にし、去二十七日午後十時頃自宅において縊死とげたりと。

大正三年十月二日 二大炭山獲得

中日実業にしては今春来密に英仏資本団と交渉し支那の利源開
 発上必要なる資本の供給を仰ぐ事に決定し、爾来支那利権問題に
 関しては鋭意袁政府と交渉の歩を進め居りたるに端無くも今次の
 世界的大戦争となり、遂に英仏より資本を融通するの途絶え折角
 の苦心も水泡に帰したるが、幸にして此程尾崎専務取締役を北京に
 派遣し、會て内交渉を遂げ置きたる二大炭山の権利を獲得する事を
 得たり、其一是広西省にある支那屈指の炭山にして炭質純良、炭量
 豊富なり、其二是揚子江沿岸にある某炭山にして殆んど前者に匹敵
 すべく、而して何れも目下支那に於いて敷設計画中の鉄道に対して
 は石炭搬出上極めて便利の地位にあり、殊に後者揚子江に臨み船積
 の便極めて良好なりと。

(一八三頁へ)